
カルマの坂

ネピア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カルマの坂

【Nコード】

N2421E

【作者名】

ネピア

【あらすじ】

ポルノグラフィティファンなのでカルマの坂を元に書いて見ました。文がおかしいかも知れませんが、御許し下さい。

昔々どこか遠くの小さな街に一人の少年がいました。
男の子には両親がいなく、
とても貧乏でした。

その為少年は悪い事と解っていないながら、盗みを覚えました。

「待てクソガキが！

その腕 たたき切ってやる！」

店の店主に見つかり、

いつも追いかけられます。

しかし、少年はとても足が速くよく逃げ切れていました。

しかし、今回はある出来事によって逃げ切る事ができませんでした。
それは一つの行列によるものでした。

その行列とは、街の1番の金持ちである貴族の行列でした。

その中に一人の少女がいました。その子は、少年からしてみれば、
この小さな街の誰よりも、この世界で誰よりも綺麗で可愛いと思
いました。

その子がどこから来たのか、わからなかったが、しかし少年には解
る事があった。

それはその子が、自分と似ている事だった。

少年は考えました。

（なんで寂しそうなんだ？）

少年はその時に捕まっ
てしまいました。

「やっとならぬぞ！！

今日こそは動けなくなるまでボコボコにしてやる!!」

そして、少年は殴られ続けながらも、少年はあの少女の事を考えていました。

「どうしたら、あの子を助けられるんだろ？」

少年は考えた末に一つの答えが出ました。

少年は死ねば全てから開放されると……

その夜少年は街の鍛冶屋から一振りの剣を盗み、朝見た貴族の住む屋敷に走り向いました。夜も更けていきました。

少年が貴族の屋敷に着く時には既に月が少し傾いていました。

警備の兵はいなく屋敷に簡単に入れたが、少女を探すのに時間がかかった。

風潰しに部屋を探してやっと少女を見つけた時には

既に心は碎かれ少年が来た事にはまだきずいていなかった。

「こんばんわ…

なにしてるの？」

少年は、何故か話しかけた。

「貴方は誰？」

ここで何をしてるの？」

少女は力のこもっていない声で訪ねた。

「貴女を街の行列で見ました…

何故あんなに寂しそうだったの？」

少年は少女の問いに答えずに聞いた。

「父に売られてしまいました。」

少女の答えに絶句しました。「……そうだったんですか。」少年は

少女に問いました。

「助けてあげます……」 「え？」

少年の言葉に少女は驚いた。

「どうやって助けてくれるんですか？」

「ここから抜だすだけでも？」 少女はここからぬけだす事ができない事を知っていました。

「死ねば、こんな理不尽世界から開放される。」

それが、僕の出来る（助け）です。」

少年はそれだけ告げると、

後は少女の答えを待つだけだった。

少女はしばらく考えて

「お願いします……」

その一言で決心したかのように少年は手に持った剣を一振り

「ズシュ！！」

少年が振りかぶった剣が少女に当たり鮮血が噴出した。

少年はその瞬間死に行く少女が小さく

「ありがとう……」と言い笑ったような気がした。

少年はしばらくそこに立ち尽くし、少女の安らかな眠りを見ていた。

お話はここで終わりです

ある時代

ある場所の物語です.....

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2421e/>

カルマの坂

2010年12月23日14時51分発行